

校長 田邊 道行

## 金管バンドの今後の取組について

1月21日、6年生から5年生へ金管バンドの引継ぎが行われ、新たに5年生の練習が始まりました。金管バンドは、子どもたちの協調性や集中力の向上、自信の醸成や音楽の楽しさの体験など、多くの教育的効果をもたらします。しかし、以下の理由により、学校での継続が困難な状況となっており、この数年間、教職員の間でも改善すべき課題として議論されてきました。

### 1 教育活動の優先順位の問題

金管バンドは学習指導要領には含まれておらず、課外活動として扱われています。しかし、年間50時間以上の時間が練習や活動に割かれており、子どもたちの遊びの時間や委員会活動の時間を削っているのが現状です。

学校としては、基礎学力向上のための学習時間や、応用的な学習・探究活動の機会を優先したいと考えています。一方で、金管バンドの指導者は、発表する場面があるとなれば、よりよい演奏を目指し、十分な練習時間を確保したいという思いをもちます。そのため、優先順位が低いとされる課外活動に多くの時間と労力を割いていることに、指導者の間でも矛盾を感じる声が上がっています。

### 2 健康とストレスへの影響

金管バンドの練習や演奏は、特に夏場の暑い時期にも行われます。夏休み中の練習では炎天下での活動が多く、熱中症のリスクが高まるほか、疲労が蓄積しやすい状況となっています。

また、金管楽器の演奏技術の習得は難しく、うまく音を出せない児童にとっては大きなストレスとなります。長時間の練習を強いられることで、音楽自体が嫌いになってしまう児童も少なくありません。さらに、興味のない児童にも参加が求められるため、精神的な負担が大きくなってしまいます。2学期末に実施した保護者アンケートでは、「金管バンドは希望制にした方がよい」という意見が複数寄せられました。

### 3 指導者不足

教員養成大学では様々な教科の指導が学べますが、バンド活動に特化した科目はありません。金管バンドの指導には専門的な知識が求められるものの、専門的な教育を受けた教員は少なく、質の高い指導が難しいのが現状です。

また、金管楽器の演奏経験をもつ小学校教員は少なく、経験があり一部の楽器は指導できたとしても、他の楽器については十分に指導できないケースが多く見られます。さらに、楽器の修理やメンテナンスの知識が不足しているため、壊れた楽器に気付かず、児童が演奏できない状況が続くこともありました。

このような状況を改善するため、外部講師を招く試みも行われましたが、毎回の指導が確保できるわけではありません。その結果、教員が校務や教材研究の時間を割いて金管バンドの指導に当たらざるを得ず、超過勤務が増えてしまうという課題も生じています。

## 今後の対応

以上の状況を踏まえ、当校では金管バンドの継続が難しいと判断しました。しかし、毎年参加している謙信公祭が令和7年に100回記念を迎えることから、令和7年度までは金管バンドを存続させる方針とし、5年生（ひかり学年）が1月から練習を開始しました。

また、金管バンド活動を中止するのではなく、地域活動として存続させる地域移行ができないか検討してきました。令和5年度末から、学校運営協議会や後援会と地域移行についての協議を進め、4月のPTA総会では保護者の皆様にも説明しました。

その後、地域移行の具体的な進展が見られない中、後援会副会長から上越教育大学の副学長におつなぎいただき、昨年12月には、私が上越教育大学を訪問し、副学長と吹奏楽担当の教授と面談してまいりました。その結果、大学生がボランティアとして演奏指導に協力できる可能性が生まれました。ただし、大学生の授業や吹奏楽団の活動との調整が必要であるため、指導は夜間または休日に限定されることとなります。夜間の場合は保護者の送迎が必要であり、活動の世話人や調整役を地域の方に担っていただく必要があります。

また、昨年11月に活動を開始した「上越ジュニア音楽クラブ」への参加も提案されました。このクラブでは、市内外の小・中学生を対象に、毎月2回程度の土日練習が実施されており、元中学校音楽教員や上越教育大学の吹奏楽団のメンバーが指導を行っています。専門的な指導を受ける機会を確保するためにも、興味のある児童がこのクラブに参加することが一つの地域移行の形となるとご紹介をいただきました。

いずれにしても、学年全員で活動する形式ではなく、金管演奏を希望する子どもが参加する形となります。

## 部活動改革の流れ

上越市では、中学校の部活動改革が進み、地域で子どもたちがスポーツや文化芸術活動に親しめる環境（地域クラブ）の整備が始まっています。さらに、「じょうえつ地域クラブ活動指導者データベース」や求人情報の開設も予定されているようです。また、小学校においても部活動の見直しが進み、上越市内ではバンド活動を中止する学校が増加しています。このような部活動改革には、国の方針も影響しています。

文部科学省は、部活動改革について整理したうえで、次のようにまとめています。

「部活動は児童生徒にとって教育的意義の高い活動である一方で、教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない。部活動は、全てを学校の教師が担うのではなく、児童生徒への指導等に意欲を有する地域人材の協力の下で、生徒にとって望ましいスポーツ・文化活動を地域が支えていくことが求められる。」

これらを踏まえ、当校としても、金管バンド活動を中止するか、地域移行とするかを検討します。さらに、地域移行とする場合は、「春日小学校金管バンド」として地域の世話人や調整役を中心に運営するのか、それとも「上越ジュニア音楽クラブ」に参加する形とするのかについても、検討を進めていきます。

## 保護者・地域の皆様へのお願い

金管バンドの地域移行に関して、保護者や地域の皆様のご意見をお聞きするため、アンケートを実施します。また、アンケートを通じて、指導や運営に協力してくださる方も募集します。（右のQRコードから回答をお願いします。）

皆様のご意見を参考にしながら、今後の金管バンドの地域移行について検討を進めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。



<https://forms.gle/Cu8R4jcZpL2iWY1W7>

# 3学年 かがやき

<のびやか活動>

**出陣！かがやき探検隊**  
～春日山の宝を見付けよう～

春日山探検を繰り返し、四季折々変化する自然とたっぷり触れ合いました。2学期からは、興味・関心の高い活動別に、追究テーマを掲げて取り組みました。



春日山古道を探検したり、生き物を探したり、葉っぱアートを楽しんだり、青苧から紙漉き体験をしたりしました。様々な活動から、「春日山は、宝の山」と、実感することができました。



# あおぞら学年(4年生)

**かっこいい4年生**  
**になろう!**

～自分も友達も大切にするあおぞら学年～

のびやか活動では、春日山を整備して、守るとともに春日山への愛着を深めました。また、音楽フェスティバルでは育ててくれた方々への感謝を伝えたり、親子学習会では命の大切さを学んだりしました。

～義の土運び～



～音楽フェスティバル～



～親子思春期講座～

